

大阪府立千里高等学校 TISF派遣

【日 程】平成26年1月20日(月)～1月27日(月) 7泊8日

【参加者】生徒2名(市村 哲大、大久保 広也)

【引率教員】1名(松浦 紀之 教諭)



1日目 1月20日(月) 【台湾へ】 13:10 関西空港発 ⇨ 15:20 台北到着

センター試験の翌日、いよいよTISFに向けて出発です。関西国際空港から空路 3 時間余りで到着した桃園国際空港。台北の天気は、私たちのわくわくした気持ちとは逆に小雨模様、しかし、心は晴れ晴れしています。

ホテルに向けて移動している時に、引率してくださっている松浦先生から台湾の歴史などを伺いました。その際に「せっかく訪問するのだから、その土地の文化や歴史を知っておくことが相互理解に繋がる。事前に台湾のことを調べておくべきだった」と少し後悔しました。

ホテルでは、TISFのスタッフや台湾の高校生が待っていてくれて、すぐに大会の説明やホテルの案内を英語で流暢にしてくれました。それを見て、「同じ高校生である私たちも、もっと英会話ができたらな」と悔しい思いを抱きました。

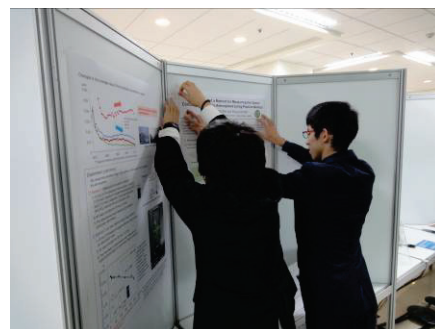
2日目 1月21日(火) 午前 大会登録・研究発表展示物セットアップ 夕方 ウェルカムディナー(麗山高級中学生によるアトラクション)

TISFがいよいよ始まりました。台湾そして、海外から20カ国の高校生が集まり、科学研究の発表の他に、様々なプログラムが準備されており、とても貴重な経験ができそうです。私たちは「名前」ではなく「JAPAN」と呼ばれる。日本の代表としてたくさんの経験ができるよう、積極的に何事にも取り組みたいと思います。

発表会場にポスターを掲示した後は、会場の科学教育館内の様々な展示を見、TISFに参加している人たちと話をしました。その中で最も印象が深かったのは、台湾の高校生の『おもてなし』です。

日本チームの案内役は麗山高級中学の何くん。彼は、私たち参加者がTISFを楽しむことができるように、ポスター掲示の準備や科学館のガイドなどを積極的に行ってくれました。また、私が困ったことや分からないことがある際は、すぐに周りのスタッフの人に取り次いでくれました。

夕方に行われたWelcome Dinnerでは、高校生によるパフォーマンスが印象深かったです。私たち海外から来た人たちのために、高校生がとてもよく練習していたことが分かります。彼ら台湾の高校生の頑張りを見習わなければならないなと考えさせられた1日でした。



ポスターのセットアップ中



麗山高級中学の生徒によるパフォーマンス

3日目 1月22日(水) 午前 オープニングセレモニー

午後 科学ゲーム(高校生)、ワークショップ(教員のみ)

Opening Ceremonyの中で研究者が英語で講演をしましたが、その講演者に対する台湾の高校生の積極的な質問(もちろん英語)の姿勢に驚きました。午後からは、科学ゲームを通じて台湾の高校生たちと互いにコミュニケーションを取りながら協力し合い、ゲームをクリアすることを目指します。一つの目標を目指す中、言語や国籍などは関係なく互いに心を通い合わせることができたような気がしました。

台湾の高校生や他国の人たちと話すと、多くの人が日本について興味を持っているように感じました。日本をよく知ることで他国の文化との違いを理解でき、それらを尊重し、互いを理解できるのではないのでしょうか。明日はいよいよ審査です。日本代表として良い発表をしたいと思います。



各国の代表生徒

4日目 1月23日(木) 終日 研究発表と審査

今日は緊張感を持って過ごしました。その理由はJudging Interviewです。国際大会での発表は初めてです。ポスター形式での審査ですが、審査員の方がなかなか回って来ません。待つ間にどんどん緊張感が強まっていきます。仲良くなった台湾の高校生から「Are you nervous? ダイジョウブ ガンバッテ」、「good luck!」との声をかけられことがたいへん嬉しかったです。それらは短い言葉ですが、心にしっかりと響きました。

審査が終わったあと、他の学生による研究を見て回りました。興味を持った研究の1つに目的にあった医薬品の合成がありました。その研究は企業の実験室で行われたそうです。他にも、大学を訪問して研究を行ったものや、研究員から直接指導を受けたものなどもあり、研究の質が高いなと感心しました。

5日目 1月24日(金) 午前 高校訪問(台北市立麗山高級中学)

午後 研究発表の一般公開

午前は麗山高級中学を訪問しました。立派な校舎で、物理、化学、生物、地学の実験室は、設備が充実していることが分かります。そして生徒一人ひとりがそれぞれの課題研究を行うという特徴を紹介されました。私が通う千里高校にもサイエンス棟が存在し、実験授業も数多く取り入れられ、2年生では1年間を通じて探究活動を行う授業がある点が似ているなと思いました。「台湾の高校生に負けないように勉学に励もう」外の世界を自分自身の目で実際に見ることにより、そう思えることができた。そのきっかけを与えてくれた訪問になりました。



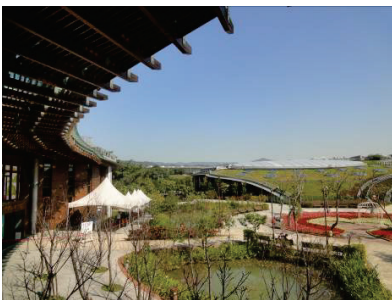
午後の研究発表：終了時間間際でも、まだまだ討論しています。

6日目 1月25日(土) 午前 サイエンスツアー (Taipei Expo Park)
14時～ Award Ceremony (審査発表)
Farewell Party (お別れ会)

午前はサイエンスツアーです。海外からの参加者に加え、TISFに出場している台湾の高校生と共に花博公園 (Taipei Expo Park) を訪問しました。今日も麗山高級中学の生徒の皆さんが案内してくれました。

午後はAward Ceremonyです。私たちの研究が2等賞であるとスクリーンに映し出され、名前が読み上げられたとき、初めは信じられない気持ちで頭が真っ白になりました。隣に座っていた先生に促され、ステージに登りプレゼンターの方からメダルをかけて頂いた瞬間、身震いするほど興奮しました。一生忘れられない記憶です。

表彰式後はFarewell Party です。出場した各国の生徒によるアトラクションでは、民族衣装での登場も…。歌や踊り、文化紹介など、生徒だけでなく引率教員も出演し、会場を沸かせました。9時過ぎまで続いたパーティーの締めくくりはプログラムにない飛び入りのダンス。海外からの参加者を中心に台湾の高校生や、引率の教員まで巻き込んで踊りました。楽しそうな様子を見ていて、参加したすべての高校生が、未来を開くエネルギーを持っているのだと感じ、嬉しくなりました。



広い敷地にはいくつものパビリオンがあります



日本チームは2等賞



司会は麗山高級中学の生徒たち

7日目 1月26日(日) 【観光】 国立故宮博物院見学・十分市内観光

今日は国立故宮博物院の展示を見学した後、「十分の街」を散策しました。「十分の滝」では、その壮大な自然をバックに友達になった台湾の高校生と写真を撮りました。また、天燈に墨で願いを書き、それを空高くまで気球のように飛ばした際に抱いた皆との一体感は忘れることができません。台湾の文化に触れることができ、たいへんリフレッシュできた一日でした。



十分の滝。
台湾のナイアガラと呼ばれている



天燈に願い事を書きます



天高く上がると、願いが叶うそうです

8日目 1月27日(月) 【帰国に向けて】

市村 : Fairの8日間はあっという間でした。大会に参加する前は、英語でのコミュニケーションや研究発表など不安な要素がいっぱいでした。また、日本代表として海外に行くことに対する重圧に押し潰されそうになりました。しかし、せっかく参加するのだから、悔いの残らないように精いっぱい頑張りたいという気持ちが強くありました。そのおかげか、私は持てる力を出し尽くすことができました。

TISFを通じて、21ヶ国、約250人という数多くの参加者との交流は、かけがえのない貴重な経験です。この8日間での経験をしっかりと心に刻みたいです。この経験を忘れず、これからの難局にも恐れることなく立ち向かっていこうと思います。

大久保 : いよいよ日本へ帰国です。8日間は密度の濃い楽しい毎日でした。私はあまり社交的な性格ではないので、他の参加者と馴染めるかどうか、最初はとても不安でした。しかし、台湾をはじめ、様々な国の高校生が積極的に話しかけてくれて本当に嬉しかったです。また、日本語を話そうとしてくれる人が多かったことにも驚きました。この訪問を通じて感じたことは、言語というのは一つのハードルに過ぎないということです。この他にも言葉では言い表せないようなことを感じ、考え、多くの刺激を受けました。そして素晴らしい出会いがたくさんありました。また再び台湾を訪れたいと思います。

松村教員 : TISFは、台湾の高校生にとって科学コンテストの最高峰。アメリカで開催されるIntel ISEFや他の海外コンテストの選考も兼ねているため、その注目度は高いです。また主催者は毎年、海外20数カ国の研究グループを招待しており、科学研究発表を中心とした科学交流の場として、お互いが学び合い、国を超えたネットワークを広げる場になっています。

TISF2014に参加して、他国の生徒や先生方がどのような考えを持っているのかを知る良い機会になりました。私たちの社会は多くの問題に直面していますが、これらの問題解決のために科学の力が必要なのは言うまでもありません。また、どの問題も国際的な協力が必要になっています。1週間という短い時間ですが、世界中の仲間たちと議論し、共感し、その中で得られた友情は長く続くでしょう。科学者の卵を育てるTISFで、生徒たちも希望や夢を掴むことができたと思います。

帰国後、私のもとにもTISFで知り合った台湾やフィリピンの先生方からのMailが届いています。これからの国を超えた多くの仲間づくりが楽しみです。

最後になりましたが、TISF2014の大会関係の皆様、案内してくれた麗山高級中学の生徒の皆様にお礼申し上げます。また、TISF2014への参加実現のために、大阪市立大学の中沢浩先生には大変お世話になりました。このような機会を与えて頂き、感謝しております。ありがとうございました。



TISF 最終日の夕食。

1週間、案内してくれた麗山高級中学の生徒たちは、国際交流のクラブ「星嵐」に所属している1、2年生です。